

1. 事業細目：養殖業振興事業費		予算額（補正含）22,038千円	
2. 研究名：魚類防疫対策事業結果		予算区分 国補	
3. 研究期間：平成元年度～平成5年度		4. 担当者：遠藤、藤岡、千葉	
5. 目的 養殖業上の大きな問題である魚病被害の軽減および未然防止のため防疫体制を確立し、効率的か		つ効果的な魚類防疫対策の軽減と食品として安全な養殖魚生産の確立を図る。	
6. 方法		(10) 水産用医薬品適正使用指導……随時	
(1) 防疫会議……年1回開催		(11) 養殖魚医薬品残留調査	
(2) 地域防疫検討会……湖東・北・西・南、マス類の地域別に年1回開催		アユ	O A 20検体
(3) 魚病講習会……外部講師紹介。年1回開催			SMM 20検体
(4) ビブリオ病に係る防疫協議会……年2回開催		ニジマス	SMM 20検体
(5) アユのビブリオ菌保有調査……月1回			
(6) 水試・魚病ニュースの発行……月1回			
(7) 漁場定期観測……月1回			
(8) 魚病診断・巡回指導……随時			
(9) 水産用ワクチン使用指導……随時			
7. 結果の概要		環境中ビブリオ菌調査	
(1) 防疫会議……5月18日実施（水試）		水・底泥・プランクトンについてSt-1～	
(2) 地域防疫検討会		St-5のいずれについても12～2月の調査	
3月5日 湖南・湖東地域（彦根）		ではビブリオ菌は検出していない。	
3月6日 湖北・マス類地域（醒井）		(8) 魚病診断・巡回指導等（4/1～1/31）	
3月7日 湖西地域（安曇川）		診断	46件
(3) 魚病講習会		巡回	53件
11月6日実施（水試）		電話	33件
「魚の健康と飼育環境」		合計	132件
南西海区水産研究所		(9) 水産用ワクチン使用指導	
石岡宏子博士		ワクチン使用希望者がなかったため指導件	
(4) ビブリオ病に係る防疫協議会		数ゼロ	
5月26日実施（水試）		(10) 水産用医薬品適正使用指導	
(5) アユのビブリオ菌保有調査		会議・講習会・巡回・魚病診断の時に行った。	
4・5・6・10・12・1・2月に合計2461		(11) 養殖魚医薬品残留調査	
尾について調査。ビブリオ菌の保有魚なし。		アユ	O A 20検体残留なし
（3月も調査予定）			SMM 20検体残留なし
(6) 水試・魚病ニュース		ニジマス	SMM 20検体残留なし
No.30～No.38まで9号を2月末までに発行済。			
3月に3月号No.39を発行予定。			
(7) 漁場定期観測（Stは琵琶湖定期観測点）			
環境……琵琶湖定期観測			

8. 主要成果の具体的数値

平成元年魚病診断状況

項 目		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ア ユ	ギロダクチルス症				1	1	2	3	2					1	10
	ビブリオ病							4	7	2	2				15
	連鎖球菌症									3	2				5
	真菌性肉芽腫症								1						1
	不明	1		2	2			2	1	1					9
計		1		3	3	2		9	11	6	4			1	40
マ ス 類	I H N				2	1	1	1							5
	キロドネラ症				1										1
	不明	2												1	3
	計	2		3	1	1	1							1	9
*1 そ の 他	キロドネラ症						1								1
	トリコディナ症			2											2
	ダクチロギルス症									1					1
	計	2				1				1					4
*2 鑑 賞 魚	ボックス病		1												1
	ダクチロギルス症									1					1
	化学物質中毒										1			1	2
	計		1							1	1			1	4
合 計		3	3	6	4	4	10	11	8	5			1	2	57

*1 食用対象のコイ・オオクチバス・ヨーロッパウナギ

*2 個人および町の美化用水路放流のニシキゴイ・コイなど

9. 今後の問題点

- (1) 水産用医薬品適正使用指導の強化
- (2) 巡回の指導の強化
- (3) 魚病情報伝達経路の改良

10. 次年度の具体的計画

- (1) 魚類防疫対策事業（補正後の調査項目を含む）の継続実施